

吉野復興大臣佐賀県訪問ぶらさがり会見録

(平成30年8月20日(月)11:00～11:05 於)佐賀県佐賀市)

1. 発言要旨

私の出身である福島県は、修学旅行などの教育旅行が東日本大震災の発災前、原発事故の発生前までは、まだ回復しておりません。

ですから、今日は全国高等学校のPTA連合会の大会で、教育旅行で福島に来ていただいて、福島の物を食べていただいて、そして福島を知っていただいて、PTAの皆さんに、この三つをお願いしてきたところです。

また、もう一つ。やはり風評被害の原点は、放射線に対する理解が足りていないということでございます。今日、復興庁で作りました「放射線のホント」というパンフレットを全員に配らせていただきました。そして、小学校、中学校、高校向けに、副読本を今、文科省の方で作っております。パンフレットと副読本も活用し、家の中でも放射線についてお話をしていただきたい、そのようなこともお願いしてきたところです。

今日、復興庁のブースには、「霧箱」といって放射線をきちんと見ることができる装置も持ってきましたので、放射線の理解を深めていただきたいと思えます。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今回が高校の全国PTA連合会に御出席されるのは初めてだと伺ったのですが、なぜ今回このタイミングでこういったことを訴えに来られたのか。

(答) 去年は小学校、中学校の全国PTA大会に出席して、同様のお願いをしてきたところです。今回、高校の大会、初めて出席をいたしまして、特に、放射線に対する理解、そして教育旅行についてお願いをしに参りました。

(問) 具体的に、教育旅行で福島に来てもらうために、旅費の助成など金銭面の支援というのは復興庁ではされているのでしょうか。

(答) 復興庁ではしておりませんが、福島県でバス経費の一部を助成しています。

(問) 分かれば教えていただきたいのですが、修学旅行が震災前までの水準に回復していないというお話がありましたけれども、どのくらいこう減っているのですか。

(答) はい。教育旅行については7年たって6割までは回復しております。でも、旅館やホテルなどは、廃業を余儀なくされている方々も結構おります。インバウンドは震災前の状況には回復した

のですけど、教育旅行の方があと一押しということで、今日お願いに上がった次第です。

(以 上)